実施計画　：　外国人観光客によるロコミ情報発信の促進
担 当 課　：　観光戦略課
手　　段　：　Facebook による情報発信、鳥取県等と連携した海外プロモーション
国際観光客サポートセンターの運営、外国人タクシーの運行
総　　評　：　効果的な指標を立て継続実施していただきたい

鳥取駅の観光案内所では年間に１万６千人ほどの外国人観光客を受付､案内している。このように鳥取市には多くの外国人観光客が訪れ、今後もその増加が見込まれる。そのような中、外国人観光客をどのように受け入れ、もてなしていくかは、観光地である鳥取市にとって重要な施策であると考えられる。

観光客の誘客による効果や指標をどのように定め、どう効果的な事業を行っていくかを模索しながら、一層取り組みを進めていただきたい。

意見・提言

1	担当課も認識している通り、日本人・外国人問わず観光客が宿泊してくれることが最も経済効果が高いと思われる。したがって何人来たかという視点の他に、どれだけ滞在したかという時間消費的視点で効果が出せるような取り組みにもより力を入れてもらいたい。
2	行政や一部の民間企業が外国人観光客を受け入れる体制をとるのではなく、鳥取市全体で、外国人観光客をおもてなしできるような環境をつくっていくことが望ましい。また、外国人観光客が利用しやすい環境が整っているお店などのマップを配るなど、積極的にそれらを案内していくような取り組みを推進してもらいたい。
3	インターネットを利用した個人の情報拡散は非常に影響が大きいものである。現状はパワーブロガーなどに委託するなどの取り組みも行っているが、委託ではない自主的な情報発信を促すような取り組みも検討してはどうか。(例：SNS での紹介やグルメサイト等での評価を入力した客様への割引サービスなど)
4	鳥取駅構内の観光案内所は、平成 27 年度で 77,000 人の利用があった。現状のスペースやスタッフ数では対応しきれないこともあるため、外国人サポートセンターとのさらなる連携強化や統合なども含めてあり方の再検討をしてはどうか。

実施計画　：　農林水産物の国内外への新規販路開拓

担 当 課　：　生産流通振興室

手　　段　：　大手企業とのマッチング、商談会の実施

総　　評　：　引き続き継続実施していただきたい

鳥取市は農林水産業が盛んな地域であるので、生産拡大や生産物の高値取引などは生産者にとって必要であると思われる。近年、若者の新規就農や他業種からの農業参入に加え、加工品の販売や独自販売ルートの開拓などの新たな動きも目立ってきており、それらを後押しする施策を展開している。

生産物の安定的な販路確保や高値取引などは、後継者確保の観点からも重要な要素であるため、成果を示す適切な指標なども模索しつつ今後も引き続き積極的な取り組みを行っていただきたい。

意見・提言

1	他都市での販路拡大や海外への輸出などは、生産者の所得向上に寄与するものであり今後も積極的に取り組んでいただきたい。併せて、安定的な消費を地域内で維持していくことも、所得のベースを整えるうえで必要と思われるので、観光と組み合わせるなどして鳥取市内での販売量を増やす取り組みも推し進めていただきたい。
2	遊休農地を活用して、後継者の育成や企業の農業参入などに今後も積極的に取り組んでいただきたい。
3	鳥取には良いものがたくさんあるというだけでなく、一つのものを掘り下げてそれがどういいのかを PR していく必要がある。島根県でも東の魚沼、西の仁多といってお米を売り出していたりするので、鳥取も農業が盛んな土地としてブランド戦略を強化していただきたい。

実施計画　：　魅力ある地元産品の開発、販売促進

担 当 課　：　経済・雇用戦略課

手　　段　：　魅力春地元産品開発のための補助、商談会出展等への支援
6 次化バンクシステムの構築、地域商社設立の検討

総　　評　：　引き続き継続実施していただきたい

地元産品をより発信していくには、まず売れる商品を作ること、そしてそれを外に売り込んでいく力が必要となる。そのための支援として食品加工産業育成事業補助金という制度を実施されている。平成 21 年度の制度開始以降、平成 28 年度までで 52 件の活用があり商品開発に寄与している。開発した商品の中には継続的に販売されているものや、販売を終了したものもあると考えられるが、これらの後追い調査・分析などを行い、より効果的な制度実施を目指していただきたい。

次年度以降、6 次化バンクシステムの構築によりさらなる商品開発力の向上に努めるとともに、地域商社の設立により販売力の強化も図られるとのことなので、今後の取り組みにも期待する。

意見・提言

1	6 次産業化は民間事業者が主役になる必要がある、今後も民間事業者が積極的に取り組んでいける後押しを市は担っていただきたい。6 次産業化に向けては 6 次化バンクシステムを構築するとのことだが、併せて 6 次化のアドバイザーによるアイデアの支援や、いつでも借りられる共同の加工場を整備するなど初期投資のハードルを下げるような取組も検討してみてはどうか。

実施計画　：　砂像のまちとっとりの推進

担 当 課　：　鳥取砂丘・ジオパーク推進課

手　　段　：　砂の美術館の運営

総　　評　：　引き続き継続実施していただきたい

砂の美術館は毎年 50 万人近くの入館者があり、その経済波及効果も 100 億円を超えるなど、鳥取市を代表する観光スポットの一つとして大きな存在になっていると思われる。しかし、多くの集客があるとはいえ、入館者数の推移を見ると、平成 25 年度は 55 万 5355 人、平成 26 年度は 46 万 4337 人、平成 27 年度は 47 万 9117 人、そして直近の平成 28 年度は 44 万 8138 人と、やや減少傾向がみられる。

今後は、砂の美術館単体での集客のみならず、砂丘周辺の自然環境を活かしたエリア全体の振興を図っていただきたい。また市内の他の観光スポットとの連携など、市民や企業と協力した、より一層の展開を期待する。

意見・提言

1	砂の美術館自体は年間 50 万人近くの集客がある観光施設であり、単独の施設としては観光面に貢献しているものと思われる。オープンしてから数年経ち、今後は砂丘エリアをどう発展させていくのか、また鳥取市内の他の施設や飲食店、宿泊施設とどうつなげて観光振興していくのかの全体像を考える時期に差し掛かっているものと思われる。
2	観光客を迎えるにあたって、砂像というものを市民自身が PR できるように、また未来の砂像彫刻家の後継者育成のため、砂像文化を市民に根付かせる取り組みを広げていくことが必要と考える。